愛國婦人會機關

愛國婦人

每月五日二十日發行

（定價）一枚金參錢一ヶ月分六錢三ヶ月分拾八錢半ヶ年分參拾六錢壹ヶ年分七拾貳錢全國無遞送料郵券代用（壹錢又は五厘切手）一割增
廣告料五號活字一行四拾錢
本號全部禁轉載

發行所　東京麴町區（牛ヶ淵公園）愛國婦人會內　愛國婦人發行所
發行兼印刷人　山澤俊夫
編輯人　手島益雄

電話番町五百二十番

◎本號には附錄として理事侯爵夫人山內禎子、京都支部幹事靑木光子、東京府幹事建石作子の肖像を添ふ

社說

◎求めて苦勞する人

人間生れて五十年、二度とない短い一生、苦勞をするは大きに損、何でも食うて飲んで遊ぶに限ると、斯ういふ考の人計ならば、國はお仕舞、人間もお仕舞なり。然れども人生に意義あり、爲すべきの仕事多し、たゞ樂を考へ、箸を持ち、芝居に行くだけのことならば、此結構なる頭や手足は勿躰なき話なり。生れた以上は生れたゞけの働は爲さざるべからず、若しそれは男子のことなり、女子は古來何うでも可かりしもの、今日も元の通りで御免被下といふ婦人、この日本に大勢あらば、日本も實に嘆息なものなり。然るに幸にも今日の日本婦人は戰爭と共に、大に働く氣となりて、種々の嘆美すべき仕事を勇ましく行ひつゝありて、中には全く生れ變りたるが如き人もあり、誠に國のため、我國婦人のために慶すべきことどもなり。然れども熟々其働く風を見るに、馬車に乘る婦人は矢張馬車に乘り、絹物は不相變の絹物、牛肉は何時もの牛肉にて、一向大なる犧牲大なる發憤を見ざるは何ぞや。夫を失うて其子を育て其家を保つがためにあらゆる快樂を棄て悔しい目悲しい目を食怺へて、數十年の永き月日を辛棒する婦人はあり、家計を助けんか爲に、子を負うて、夏の炎天を車の後押する婦人はあり、斯かる婦人は殊に我國に多く、名物として誇るに足るべきものなり、然れどももし夫にして健在ならば寡婦としての其苦勞を殊更に爲す妻はなかるべく、家計にして裕ならば、車の後押は眞平御免なるべし、即ち其苦勞たるや、夫なく家貧なるが爲に、止むを得ずしての苦勞にして、求めての苦勞にあらず。之に反して、大厦高樓に住し、入るに侍女あり、出づるに馬車あり、世の歡樂思ふまゝなるに拘らず、未開國婦人の憐なる境遇を見て、同情の念禁ずる能はず、親兄弟に分れ、文明のあらゆる幸福を犧牲として、單身萬里瘴癘の地に入りて、或は道を說き、藝を授け、或は孤兒を養護し、病者を看護する等種々の辛勞を甞め、果は砂漠の日光に明を失し、熱病に僵るゝもあり、或は女囚の憐なる生活を見て、監獄の改良に一生を委ぬるもあり、戰場を往來して、傷病者の看護に身の危きを顧みざるもあり、即ち求めて苦勞する者にして、ナイチンゲール、エリサベスフライ、カーター、デーン、ジヤロツト、ハドリツク、ハリデーの如き、我同盟國は實に此種の婦人に富むなり、近くは先日物故せる日本水兵の母と呼ばれし英國のマクレーン孃、現に日本に在りて傷病兵の看護に餘念なきリチヤードソン夫人若しくはマギー夫人及其一行の如き、皆其流を汲むものにして、其大小こそあれ、求めて苦勞するものにあらずして何ぞや。我國古來名婦に富む、しかも求めて苦勞する斯くの如きの婦人其人に乏しきは、折角の日本婦人の美德に尙一點の足らざる所あるを示すものにして、同盟國の婦人に對しても少々忸怩たる次第なり。然れども求めて爲る苦勞にも色々あり、何でもなき物言集會に於ける一言挨拶の仕損などを大變に取りて、樣々の苦勞を求めてする婦人あり、彼の一言はあてこすりなり、此の一盼は輕蔑なりなど、入らぬ所に多くの理屈を付けて、求めて苦勞する婦人あり、從來我國婦人の團體的事業の兎角榮えざりしは、畢竟婦人が斯かる詰らぬことに求めて苦勞せしが爲なり。求めての苦勞はなすべし、然れども我等の要求するものは此にあらずして、彼にあり、國の爲社會の爲人道の爲めに求めて大なる苦勞をする婦人にあるなり。

◎戰爭に依つて得たる經驗

評議員　鄭　濱子

左の一篇は評議員鄭濱子氏が天津籠城中に於ける經驗談の要領なり。有益の事共多きにより特に談話を請ひ得て之を掲載する事とせり。文字の責は記者にあり。

◎祖母より受けたる敎訓　私が丁度九歲の時でありましたが私の郷里佐賀に於て江藤新平氏の亂に遇ひました私の宅は御城のつい近くで御座りました爲に砲丸の飛で來ること實に雨の如くで御座りました藩中の人々は皆急いで立退きましたが獨り私の祖母だけは悠々と落付き拂つて立退ません家の事など整理し中々立退かうとも致しません私共は子供心に恐しくはあるし危險でもありますから早く連れて逃げて下さいとしきりに促しますが中々聞き入れてくれませんどうなる事かと心配して居ります內に祖母は家の內を見ともなくないやうに取片付け三日程立つて漸く立退きました當時私は祖母の心中を解せず早く逃けなんだのを怨めしく思つた程でありましたがさて往年天津籠城の際砲丸の烈しく飛び來る中に在て昔の事を思ひ出し斯樣な時こそ祖母のした通り落付いて事を處理せねばならぬぞと思ひまして格別取亂す事なく適應な處理を爲す事を得ましたのは子供の時祖母より受けたる實地敎訓の御蔭であつたと思ひました

◎危難に對する婦人の覺悟　洋々として限りもなく果もなき大洋の其靜かなる時は疊を敷けるか如き有樣でありますが一朝にして風に侵されると波は湧き立ち船をも覆す通り平和の內にもいつ危難が生ぜぬとは限りませんから此間に際しての覺悟が誰れにも必要で御座りますが殊にか弱き婦人の身に取つては最も大切な事ではないかと思ひます戰爭の場合などでは丸が來るから危險であるといふて一身をぬきんでゝ逃れるは第一の危險なり困難なりは免れる事が出來るか知れませぬが食料を携へない爲に餓死するとか衣服を用意せぬ爲に凍死するとか云ふ第二の困難か直につきまとふもので御座ります昔武家では其家庭敎育でそれ〳〵定つた掟もあり殊に危險に際しての處置は婦人の嗜としてきびしく仕付けられたやうで御座りますが今日では日本の敎育上これ等の事は少しも頓着ない樣で御座りますこれが女子敎育上可否の如何は存じませぬが兎に角私の實驗上から申せは危險に際しては如何に處すべきかといふ事は婦人の嗜みとして必ず平生より深く覺悟して居らねばならぬ事を思ひます此覺悟か平生に於て御座りませんと如何に學問ある婦人でも時に臨んで狼狽を極め其極反つて危險を增し遂に笑を遺す樣な事が御座りますから能々注意すべき事と思ひます

◎婦人の步行　私が常に思うて居りますのは我國の御婦人方で步行の習慣をつけられたき事で御座ります平時東京に居りましては一寸外に出ますにも人力車があり電車がありますて餘り步行が出來ぬからといふて格別不自由の事もない樣で御座りますがさて一朝事ある時に際しましては之が爲にどの位困難を增し危險を重ぬるか知れません現に北淸事變の際に保定府といふ處から天津迄三日三夜義和團に追はれつゝ逃げて來た外國婦人の一隊か御座りまして其中には年の往かぬ人もあり老人もあり病氣のもの姙娠の者もあり負傷したものもありましたが遠路の處能く逃げおほする事か出來たものと私はほんとに感心いたしました之は畢竟西洋婦人が平生步行をよくする結果で之が爲に義和團の辱めを受くる事なく一命をも全うする事を得たので御座ります若しも是が常に步きつけぬ我國の婦人でありましたならは如何で御座りませうこゝを思ひますと平生步行はよく慣らして置かねばならぬ事と存じます殊に平生步行するといふ事は私か申すまでもなく經濟上衞生上一擧兩得で御座りまして又日頃ならしさへしておけば一日二日步行きましても格別苦痛を感ずるものでは御座りません私共は私を始め娘子供まで必要の外は車にも電車にものらぬ事に致して居りますが之が爲に餘程體の健康も助けました又この節では步行く事を少しも苦にせぬ樣になりました彼の學校の送り迎へにも車を以てし一寸買ひものに行くにも電車にのるといふ世の御婦人だちは少しく御注意ありたきものと思うて居ります●

こたび親しく有功章を授けられたればいとうれしくて

東京　金子貞子

身にあまる惠のつゆのうれしさをつゝみかねたる我がたもとかな

思ひきや惠の露のなか〳〵にわが身の上にむすぶへしとは

幹事囑託の榮を蒙りて

つるき太刀よしとらずとも國をおもふ大和こゝろはわれ劣らめや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎歐州婦人界と日本婦人界

左は此程記者の訪問に對し談話せられたる要領なり

ドクトル川瀨元九郎氏夫人　川瀨ふみ子

◎交際の目的　私は久しく外國に居りました爲に日本語が十分に出來ませんから日本に歸りましても交際社會に餘り顏を出しませんだが近來漸く皆樣方と交際する事になりました夫に依つて歐洲の交際振と日本の交際振と著しく相違のある點を發見しました其相違の點を一言で申せば夫を中心として交際するのと自己を中心として交際するとの相違であります

◎夫を中心としての交際　歐洲で盛に交際が行はれて居るのは夫を中心として交際して居るのであります夫を引揚げる爲の交際であります尚詳しく云へば夫の爲の交際であります故に婦人同志の交際でも夫と常に連絡が保たれて居ります然るに日本の交際振りは婦人自身が中心であつて自分の爲に自分が交際するので夫は妻が如何なる交際を結んで居る事さへも知らず妻は又夫の交際の範圍を知らないと云ふ風で其間に常に連絡が保たれて居らぬのは甚だ不十分な交際の仕方と云はねばなりませぬ

◎男女交際の差違　日本でも男子方の交際は餘程寛裕であつて人を容れるに吝ならず適當によく人を見出す事を勸め人を引揚げる工夫を常に怠りませんが婦人社會の交際は之と反對であつて人を引揚げる事を勸めぬのみならずよく働く人があると恰も自分の領分を侵されたかの如く感じて之を引落す工風を計るが如き有樣です故に何れの會でも所謂働手の顏ぶれは定まつて居りまして何年過つても變更が生ぜず交際が非常に狹く行はれて居るのは日本婦人社界の弊害であると思ひます

◎判斷の公平を要す　婦人社界の交際上最も困難に思ふ事は判斷の公平でない事であります感情に斷へての判斷は常に公平を欠くものであります又我身勝手の考より立てられた議論は他から見ると非常に卑しく見えるものであります又會に出て會の爲に議論する以上は會の爲に最も忠實に考へ會の爲に職分を盡すの考を念頭に置き自己の名譽とか云ふ考は常に取退けて働かねばなりません然るに婦人の頭に常に名譽と云ふ事より外に何もついて居らぬやうに見えるのは殘念な事であります。且日本の婦人は多數の人の前に於いて斷然として自己の意思を發表するの勇氣に缺げて居るやうでありますから此勇氣を付ける必要があると思ひます

◎義勇艦隊に就て

相談役海軍中佐　子爵　小笠原長生

◎各國の海軍力　目下世界に於いて海に緣のない國を除くの外は海軍を擴張しつゝあります日本を省いて各國の統計を見るに第一位が英國で軍艦の數が二百四十五艘排水量が百八十三万五千四百三十噸第二位が佛國で百十四艘排水量七十三万二百二十七噸第三位が米國で六十九艘排水量六十万五千四百四十噸第四位が露國で開戰前の軍艦數は六十四艘排水量五十一万三千二百九十五噸第五位が獨逸で七十三艘排水量四十八万二千百七十五噸第六位が伊太利で五十一艘排水量三十万千百二十二噸である

◎六大海軍國は　以上の六大海軍國は何れも皆假裝巡洋艦を以て居る此度の日露の戰に於いて御承知の通り露西亞の義勇艦隊が地中海に現れたり或は南阿邊に現れたり又桑港に現れたりするが其現れる度毎に日本の經濟界に及ぼす影響は非常なものである又浦鹽艦隊の行動は恰も假裝巡洋艦の任務を爲したのである商船を拿捕し或は擊沈するのを其目的となして居たのである同艦隊も或程度までは其目的を達したであろふ之によつて見ても假裝巡洋艦の必要が認められる事である

◎國民に對する精神的敎化　幾ら日本人の海事思想は幼稚なと言つても或方法を施せば發達するに相違ない幸に斯う云ふやうな大戰爭があつて敵の巡洋艦二艘か三艘かの爲に或る打擊を國民一般に受けた際に之に對して防禦し得るものを日本人の出し合ふた金で拵へそれが或時期に於いて効力を奏したならばこれ程よい海事思想普及の方法はなからうと思ふ。

◎海軍の豫備力　若し假裝巡洋艦が出來たならば之を造る時の觀念も違ふ爲に之に乘る人の觀念もおのづから異なり自然兵員の補充の際に唯の商船の水夫や火夫を連れて來て艦に乘せたのとは大に違うと思ふ即ち海軍の豫備力となる道理である

◎再び戰地への贈物に就て

相談役陸軍步兵中佐　堀內文治郎

◎追送品と恤兵品との區別　戰地へ此方から物を送るについて追送品と云ふ名と恤兵品と云ふ名の區別がある此區別を混同せぬ樣にして貰ひたい。追送品とは個人より戰地の個人に送るのである即ち留守家族等より戰地の出征者に送るのである。恤兵品とは慈善家が一般に軍隊に同情を寄せて軍全躰に送るのである。これから冬の陣になつて千里の海外に遠征して居る將卒は世の慈善家の恤兵品に由て唯一の慰撫を得て居る次第であるから成るべく恤兵品を送つてやつて貰ひたい

◎追送品の取扱方　追送品を爲すには一定の掟があつて追送品を送る資格のある留守引受人にはそれ〲隊より通知して其方法なり時期なりを通知するから其留守宅では皆知つて居る。其通知に接せぬものは送る資格のないものである

◎下士以下には許さぬ理由　將校以上のものは官給の制度でないから留守から物を送らねば裸になつて居らねばならぬ隨つて止なく追送品制度を採つたのであるが下士以下のものは官給であつて不自由のない樣に官から夫れ〲渡すから留守から物を送る事は出來ない事になつて居る故にこれ等の人に物を送る事は心配せぬがよろしい

◎眞情眞詩

在〇〇陸軍步兵中佐　伊豆凡夫

開戰以來戰爭に關したる詩歌が或は戰に從へる將卒によりて詠はれ或は內に勞める國民によりて詠ぜらるゝこと少くない予は陣中にて新聞を閱るごとにまづ眼をこれらの詩歌に留めて面白く讀むことを常としてをる者であるが時としては一讀の下に流涕を禁じあへぬことも少くない從軍半年餘幾多の詩歌を見たが其內で最深く感じ愛誦否哀誦して淚の滂沱たるものは左の詩歌である

乃木將軍が第三軍の司令官となつて遼東に上陸せられ途金州南山を過ぎる時の詩

山川草木轉荒涼　十里風腥新戰場
征馬不前人不語　金州城外立斜陽

嗚呼南山は令息勝典君戰死の新戰場である將軍が此地を通過されたのは令息戰死の後僅に十三日目と聞く將軍廣島において令息の戰死を聞かるゝや「豚兒よく死んだ唯値のある動作をしたか如何か」と言はれたばかり爾後一言の故令息に追ぶものはなかつたと然るに親しく其地を過ぎらるゝに及んで前揭の一絕を口吟された征馬不前人不語と嗚呼何等感慨無量の句ぞや予は今將軍に謁することが屢々てある將軍は和氣靄然の裡おのづから冐すべからざる威嚴があつて毫も愁容がない流石は將軍だ

次に最感じたのは高崎正風大人の令息海軍大尉高崎元彥氏の戰死の報に接して詠まれたる二首

身をすてゝ國につくせと常にいひし
　父がをしへをよく守りけり
殘しおきし忘れがたみのひとり子は
　われもり立てん心やすかれ

といふのである少しも悲しい言葉はないがしかも千万無量の同情が寄せてある予も少しは詩歌を解して是まで他人のものに和したこともあつたが前記の詩と歌と程に予の同情を惹起さしめたものはなかつた誌して世の同情者に告げる將軍及高崎大人に對しては失禮なる評言の罪を宥されんことを求める。

家庭唱歌　宮さん宮さん

宮さん宮さん、御馬の前で、ちらちらするはなんじやいな、とことんやれ、とんやれな、あーれは、朝敵征伐せよとの、錦の御旗じや、しらないか、とことんやれ、とんやれな、

宮さん宮さん

2̇ 2̇ 2̇ 1̇ | 6 6 6 4 | 5, 1̇ 1̇ | 6, 6 4
みやさん　みやさん　なんまの　ま　へて
アーレワ　チョウテキ　セイバツ　セヨトノ

5 5 1̇ 1̇ | 6 6 5 4 | 5 6 5 3 | 2, 2 3
ちらちら　するのは　なんじやい　な　とこ
ニシキノ　ミハタジヤ　シラナイ　カ　トコ

5, 5 3 | 5 6 5 3 | 2, 0, :‖
とんやれ　とんやれ　な
トンヤレ　トンヤレ　ナ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説

笑ひ聲

中村春雨

「良君は此頃、何うかなすつたのですか、お顔の色艶もよくないやうだし、官衙からのお退刻も、何時も夜になつて大さう遲いぢやアありませんか何んだか私は氣懸りでなりませんもの、ね、何も私に隱立なさらなくつても善いぢやアありませんか、眞實に打ち明けて云つて下さいな」と、今宵も夜に入つて釣ランプの光、稍薄暗き食卓の前で新妻のお花は眞面目になつて問ひ詰められ、林新三はギックりと胸に釘、延び過ぎた散髪の前額に蔽さりかゝるをうるさげに片手で撫て上げながらわざとらしい微笑を唇頭に浮べて「何にも汝に隱立なんかする事があるもんか、役所の事務が忙がしいからつい遲くなるんだつて、云つて聞せてあるぢやアないか」

「否え、そんなにお惚けなすつたつて、もう駄目ですよ、今日夕方に一寸と八百屋へ買物に行きました時、栗田さんも井上さんもあそこの前を通つてお家へお歸りの處を僅かに見ましたもの、後から呼留めて聞いて見やうかとは思ひましたが、何んだか極りが惡くつて、ついそのまゝ歸つちや來ましたが、あの方等は良君の御同僚ぢやアありませんか、そんなに、良君許遲くまでお勤めなさつてやう筈がないぢやアありませんか」「だつて…………汝、私は私の事務があるからな……」と、返答はしどろもどろである。

「左樣でございませうよ」とお花はつんとしてその美しい眥を上げ「外の御同僚の方は役所丈の事務を濟したら直お歸りなさるんでせうけれども良君は何處か道寄をして他の事務もお濟しなさらなけりやア宅へ歸つちやア下さらないんでせうからね、何うせ私のやうな田舍者は御氣に入りますまいとも……」「そんな勘違してくれちやア困る、私は汝が可愛さうでならないから獨りで心配もしてるんだよ、少たア察してくれるか善い」「察してくれへつて、良君も呆れた方ね、女房の前でそんな餘所の惚言を云ふ人なんか聞いた事がありませんよ」「何を氣樂らしい事を云つてるんだ夫がこんなに心配してるのに、汝はみぢんも思遣つてものがない」「ぢやア私は何うすれば善いのね……事そ私が身を退いて了つたら、良君はその人と夫婦になられて本望なんでせう、ね、然うしたら思遣りがあるつて云ふもんでせうね、然うでございますか……」とおろ〳〵次第に聲は涙に慄えて來る「何を馬鹿々々しいッ、そんな串戯云つてられる處の騷ぎぢやアない」「私ア何にも串戯云つてやアしませんよ、良君こそ何處までも人を馬鹿にしてらつしやるんだわ」「何時、汝を馬鹿にしたかッ」「私に隱して妾か何か隱圍つときながら、それで私を馬鹿にしてないつて云へた譯のもんでせうか、ハイ、皆分つてますよ」と、前掛て顏を拭き〳〵、眸を眞赤にしてゐる「眞實に途方もない邪推を廻したもんだな」「邪推でも何んでもよござんすよ、私は何うせ……」「下らないッ……」と苦笑して、ほつと溜息「まア飯でも食べてから云つて聞かせう」

「私はもう何にも知りませんから……」「これ、飯をつけてくれないか」「良君のお氣に入りのその人につけて貰つたらいゝぢやアありませんか……」私は一寸と叔母の處へ行つて來ますから……」云ひさまふいと起つて駈け出さうとするから、新三追ひ縋つて袂の先を押へ「これ、汝は短氣だなア」「何うせ私は……」と身を悶えてゐる「まア、よく私の云事を聞いてからにしろ」「欺さうたつて駄目です」「欺しも何もしやしない、……實はな、私は免職されたんだ」「エッ……」と驚きの瞳を瞬つて「眞實に？」

「眞實だともさ、汝に云つたら心配して〳〵夜の目も寢られん程にやきもき思ふだらうから、何か職業の口が見附かるまで默つてやうと思つて、每日、役所へ行く風をして、辨當事で、口を探して歩いてたんだ」「然う……」と、ほつと安堵の吐息をしたが「そんな事なら何にも私に隱さないたつて善いぢやアありませんか」けれども汝に米代の心配なんかさせては可愛さうだと思つて……」「そんな心配なら何んでもありませんや、私の簪でも、衣物でも帶でも、質に入れたら二月三月凌が附かん事はありませんもの、下らない、眞實に良君は女房を玩弄の人形か何そのやうに思つて、相談もかけちやア下さらないんだもの、とんだ心配をして私は痩せましたよ、もう〳〵そんな事を隱立して下さつちやア眞實に罪ですよホヽ、ヽ」とお花は心から嬉さうな笑聲「然うか、此奴ア失敗たなハヽヽ」と新三も頭を抱へて、さも安心したやうな高笑、家内は俄かに春めいて來た。（をはり）

史傳

處女の武藝（堀川主水妻美代女）

須藤求馬

今は昔天和年中姬路城主本多政武の夫人は、備前少將綱政の息女にて、心だて雄々しく武藝を好み或時近習を召抱へ給ふに、數多目見に來る中に、青山百人町同心の娘美代と云ふ者夫人の目に留りあれ召抱へよと仰せられ、局もて何ぞ申立にする藝にてもありやと尋ねさせられしに、美代申けるは、別に何の藝も無御座候、併私は元結あげ申す事一藝にて御座候と申ければ、局も呆然果て、女の元結あぐるは常の事、是を申立には成難くとも思ひ乍ら、夫人へ申上げければ、夫人聞きたまひて、そは善き藝也、召抱へよとありければ、給金拾五兩に五人扶持は御家の定なれど、夫人の差圖にて、貳拾兩に七人扶持にて抱へられたり、局たち大に笑ひて、世間に藝の言立も多きに、元結をあげるを言立て奉公に出るといふは珍しき事なるに、それを望みて高切米にて抱へる主人の御心底こそ疑はしけれ、と下々の女共迄不審をうてど、夫人存寄ある故、美代支度出來次第引越すやうとの仰せに付き、日限を定め迎ひを遣はし、道具は先へ遣はしけるに、簞笥、長持、葛籠、挾箱、長刀、其外手道具等まで送來れり。女中之を見て、扨々元結言立にて奉公せんには、色々の猿引道具の要るもの哉と私語ける、又長刀はと笑ふもありかゝる所へ美代來り、乘物より出るを見るに、打掛に下髮にて廣敷へ通り、下女二人連れ、一人は扇子を持ち、一人は袋入り大小を持たせけり、見る人肝を潰し、女の要らざる大小持せる事や、用にばし立つる覺え有まじきにと笑ふ者多かりき、一年土用干に、美代は休息の隙に虫干せしを見るに、部屋の内に小袖をかけ、其側に具足を飾り、脇指、合口、九寸五分、長刀、半弓など飾置きたり、女中仲間之を見て、いかさま稀有なる女なりと笑ふもあり、いかにも賴母敷心底なりといふものあり、此事疾く夫人の耳に入り、さにこそあらんと思ひし故、召抱へたるに、案に違はずとて、夫人大に悅びたまふ、或る時、奧附の役人筧五郎八といふ者亂心して、夜半に廣敷にて足輕中間などに手を負はせ、それより長局に入りて奧向へ切込、元來五郎八劍術に達したる者故、女中の手には及がたく、數多の女肝を消し、狼狽廻る計りなり、捕手の足輕追々に來つれども、奧向の事案內は知らず、殊に燈なく、廊下の狹き所なれば、身の働き思樣成がたく、五郎八何處だ出よ出よと聲々に罵れども、誰有て踏込み搦捕ふべしと云ふ者もなく、時刻を移す所に、美代は騎馬提灯を腰にさし、長刀を携へ、何者なれば夜陰に御寢所へ切込事、命知らずめ、立去らぬかと聲をかくれば、五郎八聞きて、推參なる女こそあれ、只一擊と斬かくるを、美代提灯を廊下に掛置き、長刀の鞘を脫してかゝりけるに、五郎八渡合ひ、こむ手、なぐ手、十文字、腰車、廊下は狹し、やうやう近くへ寄り、前後見配り、身の働き、互に擊合ふ刃物の光、秋の螢の亂れて飛ぶに異ならず。美代隙を狙て手提く長刀おつ取直し、石突にて眉間を突けば、猛りきつたる五郎八眼眩みてたゝよふ所を、兩足拂へば、うつ伏に倒れけるを、美代女聲かけヤア狼藉者を仕留たり、寄り合うて捕へよと呼ばはりければ、足輕數多かけ寄り縄をかけたり、主人夫婦大に悅び、我が目かねに違はず器量ある女古への巴板額にも劣らじと歎美ありけり。やがて夫人美代を召び、其方の器量は豫て見屆けし違はず、我も甚悅びぬ、定て劍術をも心懸有べしと問ひけるに、初の程は隱しけれど、夫人の懇篤なる尋ね默止かたく、私幼少より無外流の兵法をならひ申候とい へば、さにこそ有るべけれと申されけり、又ある時馬場にて政武夫婦責馬有し時美代を喚ばれ、其方も一馬場乘れと有ければ、畏り候とて、馬乘袴を着し、地道乘六七遍夫より駈を追出し、豫て用意や爲たりけん、丈長一枚取出し、適宜程に切り疊み元結となし、揚捨て揚捨て二三遍の駈の中に、不殘元結あげければ、主人を始め朋輩の男女、扨々これぞ言立に致たる元結にてこそありつらめと、彌目をかけられ、其後知行百石給はり、大に面目を施し、同藩堀川主水が妻となり、子孫榮えたりけり。今樣の姬御前達も、乘馬自轉車水泳抔の嗜は、チトありたきものにこそ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

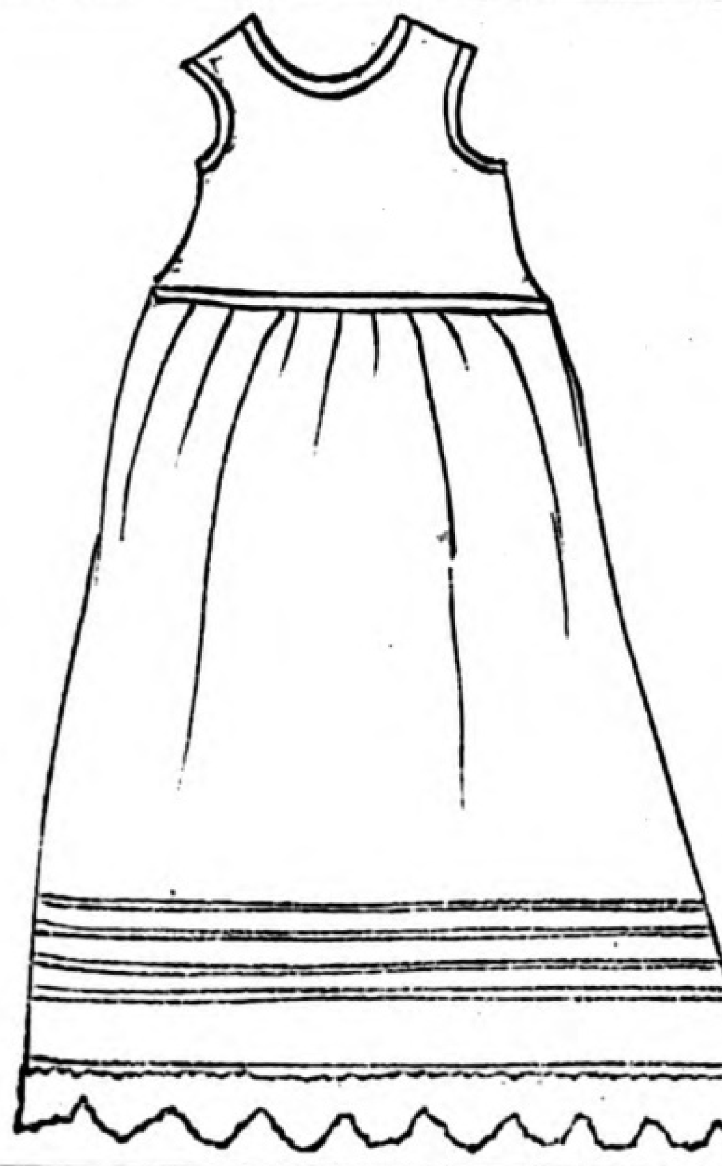
◎簡單なる子供用の西洋服雛形

(日本の針で調ふもの)

ドクトル川瀨元九郎氏夫人　川瀨ふみ子

第一圖 甲 前 (腹掛けと猿股兼用)

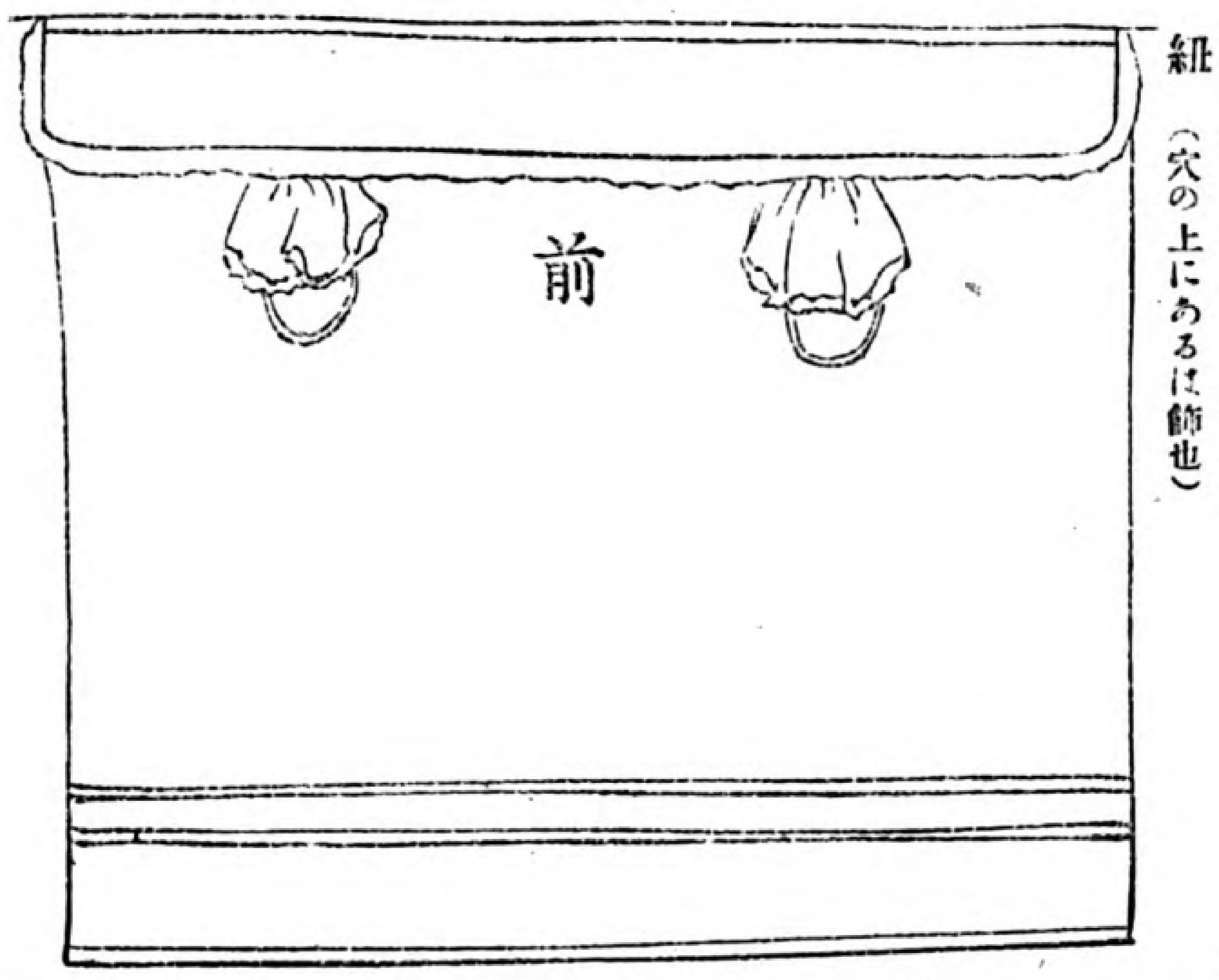
第一圖 乙 後



第二圖 甲

第二圖 乙

甲乙共に胴着長き方は其前面を顯はし短き方は背面の上部丈けを示したるものなり



第三圖 上衣

第四圖 着た時の前面

◎説明　皆さんは西洋服と云へば直ちにミシンが必要であると云ふ御考へが浮ぶでありませうが圖で御覽の通り至つて簡單なものですから裁縫の心得のある方はミシン無しにどなたでも出來るのであります第一圖は腹掛と猿股とを一緒に作つたものであります紐は肩につるので取はづしは後部のぼたんを外せば自由です第二圖は胴着でこれはぼたんを後ではせるのであります袖がないのはシャツを中に着せるからであります第三圖は上衣で手の當る處に左右の穴をあけ穴の上に飾を一寸付け紐を後で結ぶと自からよい恰好の襞積が出來て非美術的のものが美術的のものに變化します皆さん試みて御覽なさることを希望いたします私の小供には素より實施して居ります

◎我家の實況 (寄稿を募る)

東京會員　某

私の夫は日清戰爭の當時軍吏でありまして准戰死を遂げました當時小供が男女合て四人ありましたから之を十分に教育して成る可く他人に依賴せず且一時御上より下渡されたる公債には手を付ぬと決心して今日まで目的通り行うて居りますが今日までの經過を大體申上ぐれば始の子は女でありますこれは地方に居る頃師範學校の女子部に入れました(官費です)其後卒業して今日は東京音樂學校甲種師範部に入れて居ります(官費です)次は男子ですこれは地方幼年學校に入學致させました(遺族の子は官費です)今日では士官學校に來て居りまして本年十二月には卒業するさうです第三番目も男子でありましてこれも兄と同樣地方幼年學校に入れました遺族の子でも二人は官費に採用されない規定でありましたから此者の費用は縣の奬學資金の内より支辨して貰ふ事になり今日は中央幼年學校まで進み本年の暮には士官學校に進む都合です第四番目も男の子でこれは京北中學校に通うて居ります此者に對する費用と私の食料とは恩給金で支辨して居ります私の最樂しき日は日曜日でありまして二人の子が士官學校と幼年學校とから歸つて來ます團子でも拵へて置いてやると大喜でこれを食べながら姉が彈出すオールガンを聞いて私共と共に遊んで歸ります御恥かしながら一家會計の狀況を左に御示しして世の方々の御批評を乞ひます。

明治三十七年中一ヶ月分平均會計收支の實況

一家族三人

收入

一金貳拾圓也

支出

一金拾七圓四拾八錢

內譯

家賃	金貳圓五拾錢
米代	金五圓
副食費	金參圓
薪炭代	金六拾錢
醬油味噌酢鹽	金壹圓拾錢
新聞代	金拾八錢
學資	金貳圓五拾錢
御寺參り費	金拾錢
湯賃及衛生費	金參拾錢
日曜日每茶菓費	金八拾錢
被服費	金壹圓
小供小遣	金五拾錢

預金　金貳圓五拾錢

表中家賃の少きは拾疊一間の裏座敷を借りて居るからです

編者申す。從來本紙に掲げ來りし家計收支の實況は高評を博し來たりしが今回更に家庭の狀況をも合せて記載したる家計收支の狀況を掲げばやと思ふ折から本編の投書ありしかば直に登載することとせり爾後會員方も無名にて現今の生活狀態を御もらし下されたし切に乞ひまつるになん

◎特志看護婦 正帽並ニ正服 最新形廉價 調進仕候

◎但し多數御注文の節は特別割引仕候

冬物到着

婦人洋服 地及附屬 小間物一式 並袴地

東京市麹町區麹町二丁目七番地

八木屋號 大國市藏

電話番町七百四十二番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會記事

◎評議員會開會期日　本月分の開會期日は左の如くにして午後貳時より開會の筈なり(貳時と改正)
十月十二日(第二水曜日)十月廿六日(第四水曜日)

◎評議員會臨時開會　去にし三日臨時評議員會を開き本會細則幷に移轉式に對する寄附の殘餘金處分につき議事を開きたり

◎理事新任　侯爵夫人山内禎子氏は今回本會理事とならる

◎本部移轉式の状況

皇城に八千代を契りて蟠踞せる老松は蓊欝として水色更に明媚を加へて藍碧の細波蕩搖せる邊清風起りておのづから神氣爽快たり此處即本會の在る所にして幾多英靈の鎭まれる靖國神社の前四通八達の區たる九段坂の畔しかも閑雅幽邃なる牛が淵なり本會將來經營の據を此處に定めて移轉の式を擧げつ時はまさに九月二十八日門前には國旗を交叉して周圍には幔幕を引廻らし屋後には白木造の高壇を設けて總裁殿下の御座所を整へ左側を評議員席に右側を幹事席に正面を來賓席及會員席とす室内には萬國旗を飾りて活花艶やかに匂ひ二階には會員の寫眞を陳列して相知に便せしむ式の次第左の如し。

午前九時五十分第一鈴にて會員一同式場に集まり第二鈴にて總裁殿下幷に名譽會員たる久邇宮妃殿下御着席あらせらる松平事務長進みて御挨拶申上げ岩倉會長の祝辭あり總裁殿下は自ら御諭旨を賜はり岩倉會長奉答し次ぎて千家東京支部長の祝辭ありて有功章の授與を行はせらる茲に於て松平事務長終式の由を申上げて總裁殿下幷に久邇宮妃殿下御退場第三鈴にて會員随意退散す式後來會者へ茶菓を配布せり。

◎總裁閑院宮妃殿下ノ御諭旨

我ガ愛國婦人會ハ本月ヲ以テ茲ニ本部移轉式擧行ノコトヲ告グ今ヤ時局ノ進運ハ益々急ナルニ際シ外ハ會員ノ增加ヲ聞キ内ニハ移轉ノ式ヲ見ル何ノ悦カ之ニ加カン然レドモ本會事業ノ前途尚ホ遼遠ナリ職員タルモノ本會ノ主旨ヲ服膺シ彌々質實以テ事ニ當リ其ノ隆盛ヲ期セヨ爰ニ移轉ノ式ニ臨ミ智惠子ノ希望ヲ述ベテ祝詞トス

◎會長岩倉公爵夫人の答辭

本日我愛國婦人會本部移轉式を擧ぐるに際し畏くも我總裁宮妃殿下幷に名譽會員各妃殿下の臺臨を辱うし優渥なる令旨を下し玉へり。會員一同感激に堪へず久子等自今一層至誠を盡して重き臺旨に副ひ奉らんことを期す一同を代表し謹みて答辭を奉る。

◎會長岩倉公爵夫人の祝辭

我か愛國婦人會は事業の擴張と會運の發展とに應じ茲に本部移轉の擧式を見るに至れり。抑々本會の創立は明治三十四年二月なりき。其當時は實に定まれる家屋さへなかりき。然るに數年ならずして今や會員は日に月に增加して殆と二十万を數へ會基漸く牢くして遂に本館を購入し之に移るに至る。畢竟これ總裁殿下の御統卒宜しきと職員始め會員諸君の熱心盡力とに因りてなり。豈祝せざるなきを得んや其建築たる宏壯輪煥の美を見すと雖も本會が全國支部の中樞機能たる活動をなすに足ること〻信ず職員諸君益々戮力勵精會務の擴張と充實とを努めば庶幾くは本會の所期を達し得られん乎。聊か所思を述べて祝意を表す。

◎千家東京府支部長の祝辭

愛國婦人會本部移轉の式は今日の吉日を選びて擧げられぬ。この地は東京の中央にて遠近よりの行きかひも便よくことに本會とは因縁淺からぬ靖國神社の付屬地に礎かたく築立てられたることしあれば本會の行末は色かへぬ社の常磐木とことはに立榮えぬべし。さればわらはら會員が此牛が淵にたゝゆる水のごとく深く廣く計りていやます〳〵御國のために盡さでやはあるべき、俊子東京支部の會員に代りて謹んで祝辭を述ぶることかくなん。

○有功章授與　本會に功勞ありたるもの及金員を寄贈せし左の諸氏に對し有功章を授與せられたり

七寶製有功章(一等)　公爵　島津忠濟
仝　法學博士　岡野敬次郎
仝　金子貞子
七寶金色製有功章(二等)　古谷ます子
七寶銀色製有功章(三等)　山下秀子
前田とみ子、加藤ひで子、吉村義子、藤村みよ子
岩崎銀子

◎當日の重なる臨席者　總裁閑院宮妃殿下、名譽會員久邇宮妃殿下を始め會長公爵夫人岩倉久子、理事公爵夫人德川泰子、前公爵夫人毛利安子、侯爵夫人大山捨松子、同山内禎子及評議員、相談役會員等數七百餘名なりき。

◎當日各地よりの祝電　地方の支部及幹事等よりの祝電左に
三重支部長莊志佳子、伊豫越智郡委員部、廣島德久張子、廣島加屋鎌子、廣島支部、千葉縣支部長石原靜子、長崎縣支部、德島支部

◎移轉式に對する寄附　移轉式は時節柄の事なれば最も質素を旨とするの積りにて僅少なる費用の豫算を立て評議會の議決を經たるが評議員幷に幹事中の有志者の人々にて本會の費用は此多數の救護者を生ずるに當り成るべく之を貯へ置き度との熱心よりして左記の通り臨時寄附あり夫れか爲移轉式の費用は寄附金のみにて支辯し尚餘りあるに至りしにより此程の臨時會にて其處分方を定めたり。

一金貳圓ッヽ　評議員中山幸子、有島幸子、佐々木芳子、山脇房子、濱尾作子、鳩山春子、戸田時子、高木鐐子、千家俊子、清浦錬子、南郷柳子、岩佐鍊子、鄭濱子、關むら子、阿部篤子、麻生鈴子、堤常子、伊東美禪子、棚橋絢子、松平須磨子
一金百圓　日本橋區幹事部、金五拾圓　小石川區幹事部、金五圓　淺草區幹事中、金貳拾圓　赤阪區幹事中、金貳拾圓　淺草區幹事中山幸子、金貳拾圓　淺草區幹事大谷かち子、金貳拾圓　下谷區幹事飯塚里子
一金貳圓ッヽ　本郷區幹事石崎つる子、牧田ます子、秋間ため子、三枝よれ子、磯江きく子、後藤さだ子、關まよ子、長谷川さゑ子、前田とみ子、渡邊げん子、佐藤猶子
一金貳圓ッヽ　京橋區幹事阿部多賀子、大住律子、福岡繼子、增江鐡衛、小池みつ子
一金貳圓　淺草區幹事岩崎銀子
一金壹圓ッヽ　(芝區幹事市川操子、服部文子、吉田芳子、村田歌子、齋藤寧子、丸木駒子

◎物品寄贈　移轉式に際し物品寄贈されたる方は左の如し
花器　一對　岩倉公爵夫人
土瓶　貳拾個茶碗二百個(愛國婦人會名稱入り)　日本橋區幹事部

◎正誤　前號第六十二號肖像附錄に評議員松平正子氏を前子爵夫人とせし前の字は誤りにつき謹んで正誤す

御園白粉は
畏き邊りの
御料に召させらるゝ、
高貴の御化粧料にして
本邦唯一の完全なる
無鉛白粉なり

登錄

御料　御園白粉

濃、薄化粧用　ねり製白粉　御園の雪　金七拾五錢　金三拾五錢　金拾八錢
うす化粧用　水製白粉　御園の月　金貳拾五錢
洋風化粧用　粉製白粉　御園の花　金拾錢
ねり製白粉　とき水　御園の露　金拾貳錢
洋風化粧下　クレーム　御園の蕾　金拾錢
濃厚化粧水　あれしらず　四季の花　金拾錢
懐中化粧用　御顔なほし　御園の撫子　金五錢

製造元　東京市芝區西之久保櫻川町　胡蝶園　電話新橋一六八七番

發賣元　(善)　丸見屋號　丸善商店　東京市日本橋區橘町四丁目　内外小間物化粧品問屋　電信略號○ミヤ　特電話浪花四四八番

◎全國至る處の小間物化粧品店にて販賣す
◎御園白粉說明書電話はがき御申越次第送呈す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會雜報

◉東京支部の新事業　前號に記したる如く報國婦人會に於ては本會の一部を借受け出征軍人の衣服裁縫の企ありしが其後同會にて模樣替となりし爲更に東京支部に於いて本部の一室を借受け同支部の事業として軍人の衣服を裁縫し其收益を軍人の遺族に供し又軍人の遺族に職業を與ふるの目的にて軍人の衣服裁縫に從事せしめ獨立自營の途を講ぜしむる計畫あるよし

◉本會と松前子爵家　都下の某新聞に近頃婦人評判記なるものを掲げつゝあるが其内松前子爵夫人に對し本會の重立つ人が泣付き會の經費半ば以上の負擔を要求し前後通じて三萬圓以上の出金を請ひたるが如く記載せるも右は事業相談にて同子爵夫人は最初より本會に對し非常に斡旋の勞を採られたるも本會よりして金錢上の助力を仰ぎたる事なく同家よりして應分の寄附はありたるも如此仰々敷き事柄にあらざるにより會員に於て該記事に誤られざるやう特に注意す

雜報

◎運動界案内

◉教育　博物館（上野）〇動物園（同）〇植物園（小石川）〇就遊館（九段）

◉美術　繪畫展覽會（新橋竹川町）白馬會（上野公園五號館）〇工藝競技會（上野公園美術協會）日露戰地撮影展覽會（上野西郷銅像前）應用圖案和洋畫展覽會（上野五號館）〇

◉會　十二日十三日池上本門寺の法會式〇十七日は舊曆九月九日菊節句〇二十日は農家の惠比須講〇廿七日廿八日は横濱根岸の競馬會〇每日曜日哲學講話會（愛國婦人會內）

◉運動の場所　仙臺閣（麻布）〇岩香園（芝公園）〇彩花園（芝公園）〇妙攀閣（南品川）〇藤風園（團子坂）〇百草園（入谷）〇草花閣（向島曳船）〇百花園（向島）〇目黒花壇（目黒）〇早稻田農園（牛込）〇寂樂園（三河島）〇清水園（團子坂）〇吉野園（四ツ木）〇常春園（染井）

◉國民後援會の毛布募集　同會にては今回丸の內東京商業會議所內に同事務所を設置し出征軍人へ寄贈する爲め來る十月十日を限り普く毛布の募集に着手せり

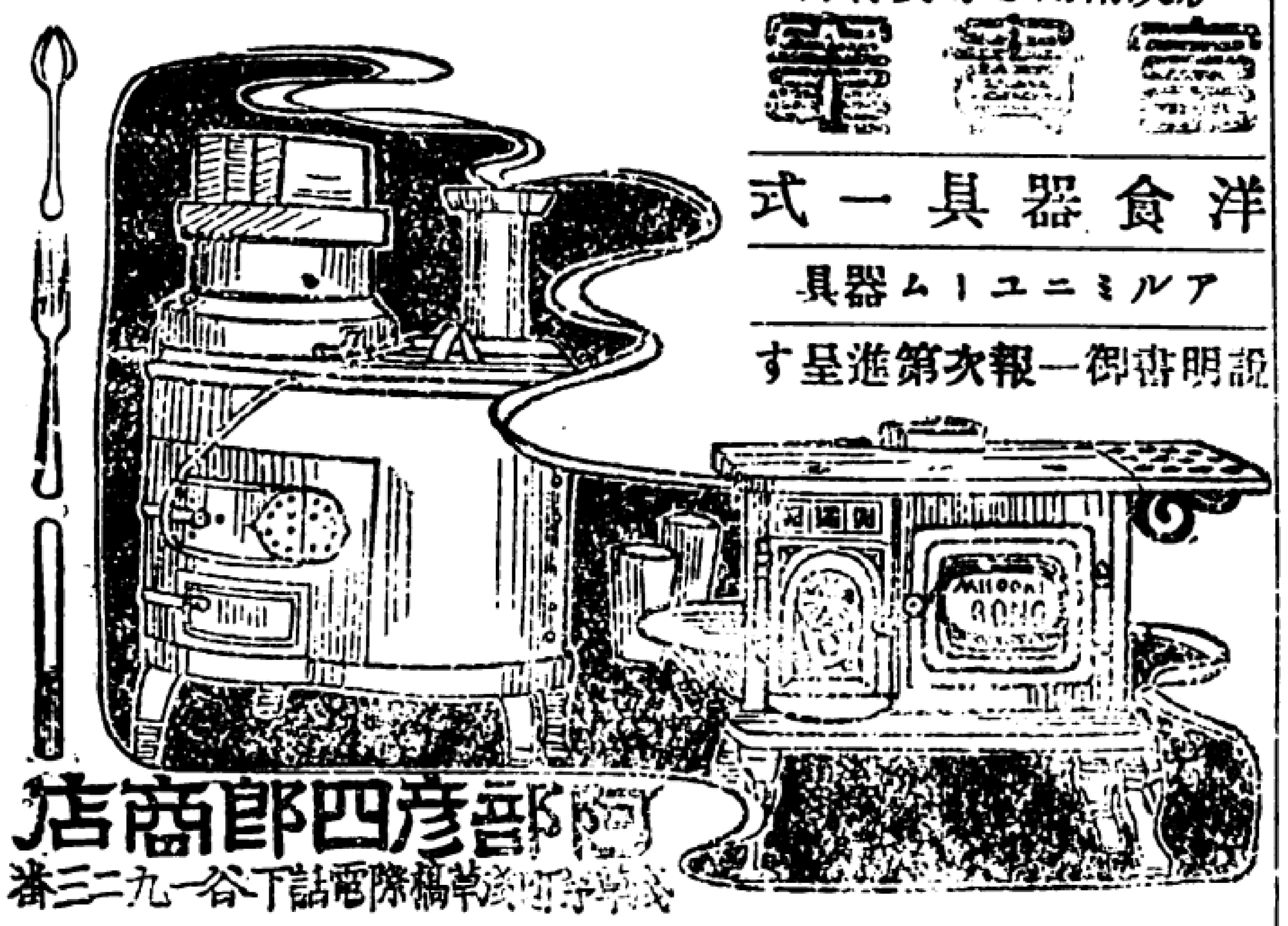
◉東京音樂學校　本月中旬頃音樂學校生徒の催しにて秋期演奏會を開き其收入高を陸海軍恤兵部に寄附するの積りのよし尙同校にてはカイセル氏を新たに傭入れたるよし

◉女子美術學校　本鄕區弓町なる女子美術學校にては新たに音樂部を新設して志望の生徒をして講習せしむるよし當十月は編物造花刺繡、裁縫各撰科生卒業期にて七十餘名の卒業生を出すべく恰も十月卅一日は同校創立紀念日なるにより其の時卒業證書授與式を擧行し同時に各科とも補員募集をするよし

◉大日本女子教育會　同會に於て本月中每日曜日愛國婦人會の會議室にて哲學講話會を開く筈なるが去にし二日午後一時より開會文學博士桑木嚴翼氏哲學についての講話をなせり來會者百三名極めて盛會なりし

◉大日本婦人衞生會　例會を靜田一橋女子共立學校內に開き山根氏外一名の講演ありたり

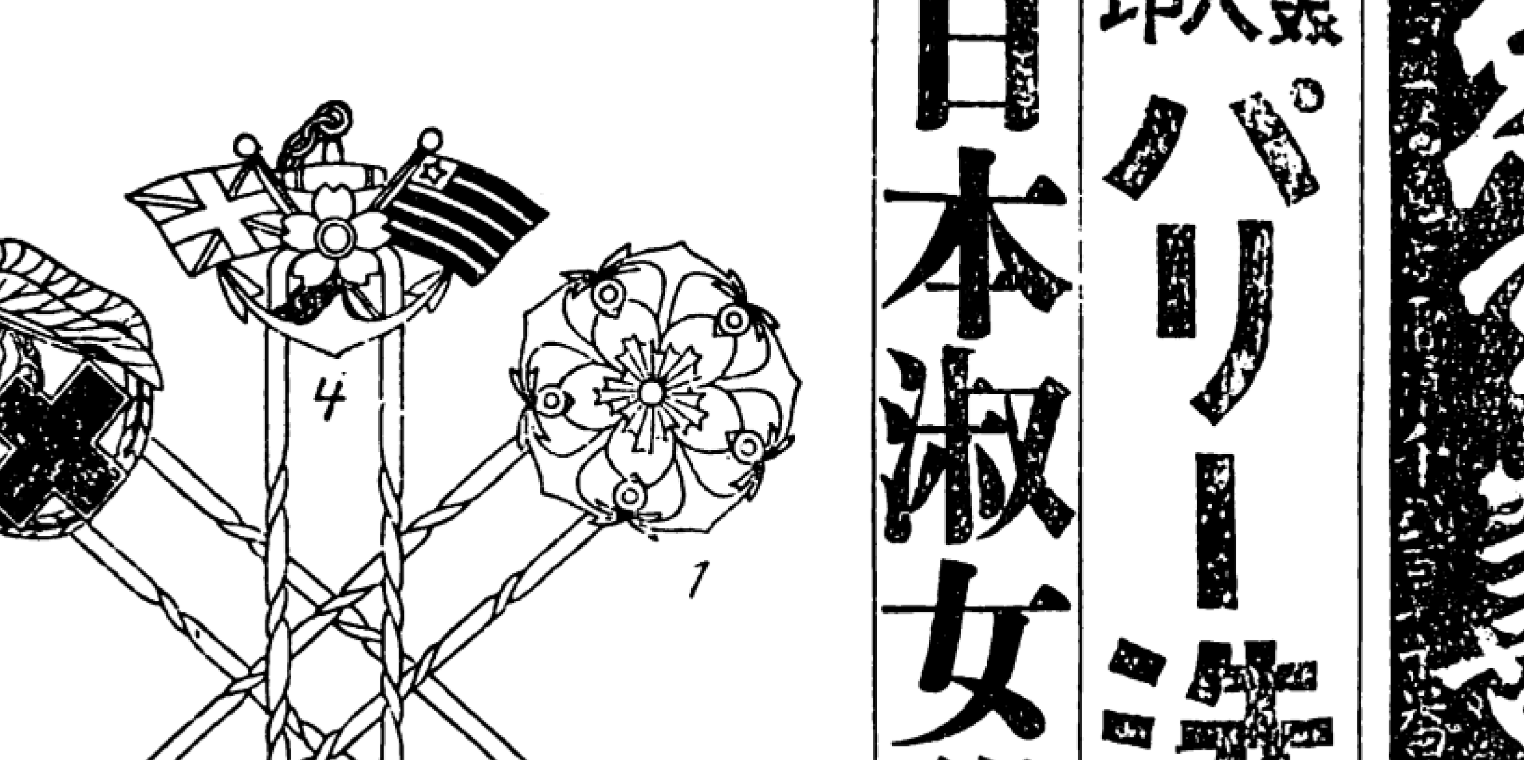
登錄商標　水晶おしろい　薔薇麝香入　無毒薄化粧
東京通塩町　大和屋發賣
大瓶金貳拾五錢　小瓶金拾貳錢

第五回內國勸業博覽會賞牌受領
薪炭兩用〇專賣特許
洋食器具一式
アルミニュームト器具
說明書御一報次第進呈す

阿部彥四郎商店
電話下谷一九二三番

小松宮賴子殿下本會總裁御辭退の處此度新に伏見宮博恭王妃經子殿下を本會名譽總裁に奉戴するの光榮を負ふ此段會員諸君に披露す

明治卅七年九月廿八日　大日本女學會

戰捷紀念簪



開戰以來向ふ所敵なき我陸海軍の大捷紀念として上圖の如き束髮ピンと前差とに兼用の簪發賣仕候

一號　陸海軍紀念
二號　赤十字紀念
四號　同盟の紀念

三種何れも純銀製にて金色と各色の七寶とを配合せしいとうるはしき品に候

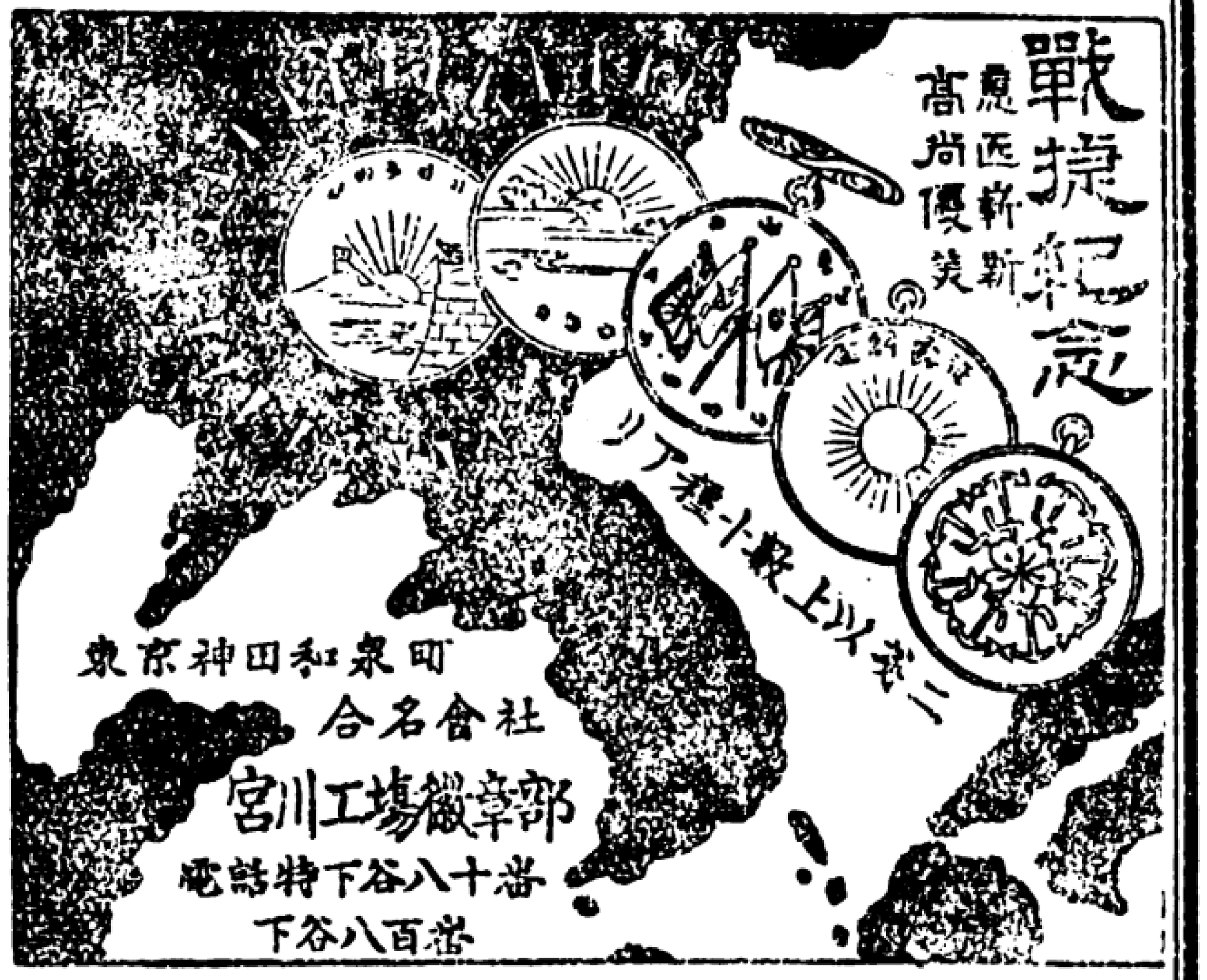
此紀念簪は聊か戰捷の祝意を表し特別廉價にて差上候間御注文あらんことを

一號二號　金一圓
四號　金二圓五十錢
市外送料　金十錢

東京市京橋區尾張町　白牡丹本店　特電話新橋五五二番

東京駒込　日本淑女學校　大學 中學　生徒募集　裁縫 割烹 音樂科　募集規則入用者郵券二錢送れ

美人印　パリー洗粉　東京市京橋區南鞘町　發賣元　㋕中島商會



西川商舖牛豚肉販賣廣告

品質佳良無比類　價廉我店所最勉
配達迅速而正確　夏季殊勉其防腐
普通配達日三回　市內何處不厭遠
若有臨時急用事　走自轉車而直辨
地方配達有便法　特勉西洋料理用
請試購而評其味

價格左ニ

牛肉百匁	円
ヒレー	50
ロース	45
ラン	38
ステキ	38
イチホン	38
ヒキ肉	30
ブリスケ	22
ハラスープ	16
スネスープ	20
尾	15
ケンネン	05
舌	42
ケンネン油	14
ヘット	16
豚肉百匁	
上等	20
並等	18
チヤプ	14
ヒキ肉	16
油	16

小石川表町廿二番地　電話番町六五九　西川本店
本鄕區駒込東片町五番地　電話下谷二三七一　西川支店

我社の組織及び保險の方法は加入者の爲に最親切に考へたる積りなり、故に生命保險を爲さんとせらるゝ諸君は一應我社の書類を覽られたし、書類は御請求次第無代價にて進呈す

東京、日本橋區新右衞門町
第一生命保險相互會社
電話本局一三七三　一七三七

社長　伯爵　柳澤保惠
專務取締役　矢野恒太
取締役　大橋新太郎
監査役　濱口茂之助
相談役　池田謙三
相談役　森村市左衞門

拾版　ドクトル佐伯理一郎著（總ふりかな付）
普通看病學
正價六十八錢　郵税十錢

二版　下平文柳著（總ふりかな付）
私宅看病法
正價金五拾錢　郵税六錢

八版　下平文柳著（總ふりかな付）　看病法修業用
人體解剖生理
正價五拾五錢　郵税六錢

發行所　東京本郷區龍岡町卅四　吐鳳堂書店

冬衣賣出し
十月十日　十一日　十二日
とせ切見切反物種々陳列仕候
日本橋通四丁目角
松屋呉服店
牛山武兵衞

東京市日本橋區通一丁目
合名會社森村銀行
電話（特）本局六十三番
定期預金　六ヶ月以上　年五分三厘
當座預金　百圓に付日步　八厘
特別當座預金　同日步　壹錢壹厘

商標登録　高木
官許　懐中妙藥　清心丹
本舖　東京光大阪町八番地　高木與兵衞

本劑は近頃同名又は類似の藥各地に夥多相見へ候に付人魚の商標と高木の名稱篤と御認の上御求めあらんとを乞ふ

目印　赤のまんき
めりんす　ゆうぜん　ちんぞう
最新流行　めりんす　ちりめん　一手賣
人形町通り　住よし所
オバナヤ

東京日本橋區長谷川町
卸部　美濃磯本店
電話浪花二八五九番

小賣部
本郷區本郷五丁目　美濃磯本郷支店　電話下谷一四一五番
淺草區諏訪町　美濃磯淺草支店
日本橋區佐内町　美濃磯佐内町支店
芝區新櫻田町　小田商店
牛込區神樂町一丁目　伊澤商店
四谷區傳馬町一丁目　伊澤支店

院長　醫學博士　榊順次郎
副院長　醫學士　久保徳太郎
婦人科產科榊病院
東京麹町三番町卅三（電話番町三九五）
每日午前診察　每日夕刻診察

看護婦の需に應ず
東京看護婦協會
神田區錦町參、貳、（電本三三一四）

●水原產科婦人病院
○所在神田區猿樂町十二番地（電話本局千七百〇九番）○外來診察午前中○入院往診隨時○同院に私立產婆學校の設あり

るゝれきさ　切らずになをす
●心臟病（殊に瓣膜病）
●脚氣（轉地不必要）
神田三崎町三ノ一四通り廿五（診察午前）
千葉内科院

產科手術學婦人科診斷學講習
來十月十五日始業醫士免狀所有者入學を許す
東京日本橋區濱町三丁目七番地（電浪一二六〇）
產科婦人科楠田病院

新古冬衣品揃申居り候

呉服　衣類一式
新古　禮衣
婚禮衣
正札附
引分三中月本
電話本局六五一
東京日本橋川瀬石町東仲通
一本杉

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治三十七年十月五日發行（毎月五日二十日二回）

油染油垢でも揉ずに脱る奇代の原料

世界無比 新發明 **英國製ワッセル**

◉此ワッセルは湯一升に二匁（小盃へ半分餘）の割合にて溶解し洗濯物を凡貳時間浸し揉まずに置き後水にて洗へば自然に脱ます白地の着物シャツ足袋等には石鹼より數倍の効用があります

◉婦人の髮は一匁五分（小盃へ半分位）を一升餘の湯に溶解して洗へば玉子と同様の効用があります脂肪多き身躰に常に使用すれば皮膚を密にします尤も水虫糸かせ手のあれる事は決してありません

◉食器臺所道具は勿論戸棚板の間の拭掃除にも有効です絹木綿毛織物を晒すに至極妙です又硬水を軟水にする特効があります蒸汽管の鑛石も奇妙に除去ます

芳香ワッセル

◉此ワッセルは香料其他衛生に適する各種の原料とを加味せしものなれば朝夕御用ひの方に香氣馥郁として色を白くし總て皮膚の患にかゝるとなし又おしろい下を用ひずして御化粧の出來る事妙なり

ワッセル水　ワッセル石鹼

◉此品も芳香ワッセル同様の有効品であります論より證據一度御用ひあれば其効能はすぐ知れます

英國製ワッセル日本一手販賣元　御肌あらい芳香ワッセル製造元
東京京橋區卅間堀三丁目河岸　**三友商會**（電話新橋千七百十二番）

費用と手數を省き無害有効の洗淨品

三　**半襟り帯揚**　斬新柄數多調製

戰捷紀念ネキタイ
右新案ネキタイ賣出し仕候各洋品店に差出し有り
發賣元　おろし賣仕候

本店　**ゑり治**　新橋竹川町十二番地　電話新二〇二七
支店　**ゑり治**　神田表神保町壹番地　電話本局九五二

大醫處方調劑

内外可溶性錠劑
消毒綳帯材料
葡萄酒滋養品類
醫療用諸器械

麴町四丁目　**尾澤藥局**

御用の節は電話番町百四十一番へ御願申候

工業用藥品
高等賣藥類
高等化粧品類
度量衡各種
和漢洋藥品類
外國諸鑛泉

衛生 消毒分娩用具
寫眞用藥品
ゴム製氷袋類
線香、薫香類
舶來 ミルク及哺乳器

以上正格に、誠實に機敏に、薄利に、輕便に、駿速に、熱心に信用を第一として御需用に應じ奉らんと期す、仰き希くは多少に拘はらず御愛需御賞用あらんとを敬白

東京市麴町區麴町四丁目十二番地（舊小西商店跡）
尾澤分店　藥劑師　尾澤洪　謹白
電話（番町百四拾一番）

諸官省御用
◉婚禮用病院旅館學生飲食店用其他澤山
●夜具●蒲團●ざぶとん
東京神田區表神保町
矢田商店
電話本局二千十八
市内無賃配達

[illegible]菊　大和屋

特別製　參拾五錢
大瓶　貳拾錢
中瓶　拾錢
小瓶　六錢

良藥にして口に甘し

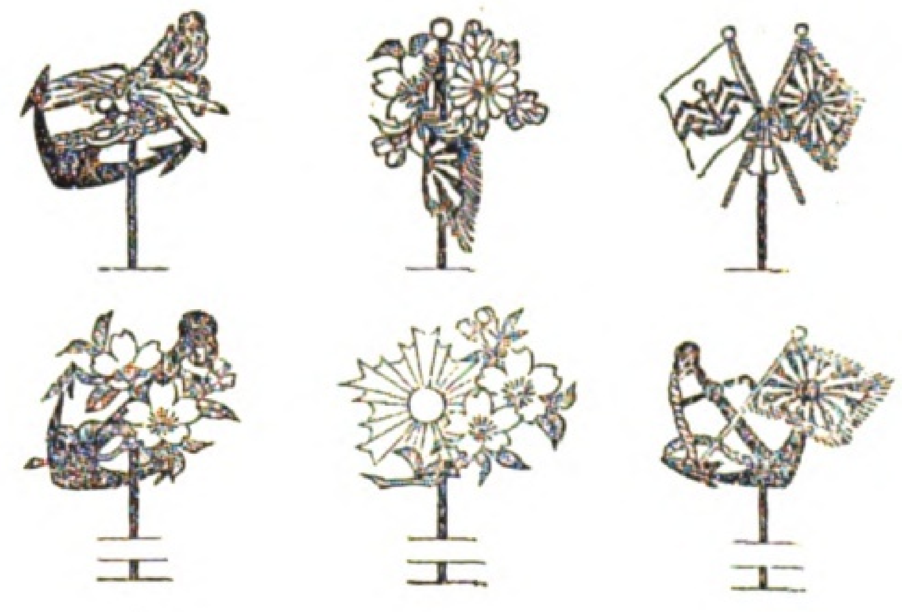
從四位淺田宗伯先生直傳　**淺田飴**

定價　金五拾錢　金參拾錢　金貳拾錢　金拾錢

本家　東京神田鍛冶町　大阪北久寶寺町　**堀内伊太郎**
本品全國到る處の藥店に販賣す

無毒 **クイーン白粉**
艶美 **クイーン水**
東京 **花陽堂**

戰勝紀念ピン



金銀の地金に七寶の彩色うるはしく圖案は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠に成れるもの世の紳士淑女たちは各その胸間に飾りて此の千載一遇の皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

定價　純銀製一個　金三十五錢以上
餘は御好み次第迅速調製可仕候

手釦は孰れも陸海軍を象れる優美なる意匠を凝らしあれば世の紳士たちは洋裝に飾りて皇軍大勝利の紀念としたまへかし。

此圖案の外陸海軍連勝にちなめる斬新の意匠を凝らしたる提物澤山出來致居候

宮内省御用達
東京市下谷區池の端仲町
玉寶堂
電話下谷一特九六五番　一二四四番

十一月一日より
全廿一日まで
光琳作品展覽會
第八回新柄陳列會
よせぎれ見切反物大賣出
三井呉服店

◎特約販賣店
◎東京堂　神田區表神保町三番地
◎東海堂　京橋區銀座四丁目

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會内
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人第六十三號附錄

理事
侯爵夫人山内禎子

東京府幹事
建石作子

京都支部幹事
青木光子

明治三十七年十月五日發行（毎月五日廿日二回）
明治三十五年三月廿七日第三種郵便物認可

發行兼印刷人　山澤俊夫　編輯人　手島益雄　發行所　愛國婦人會内愛國婦人發行所
印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

愛國婦人會[illegible]

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN